

オシドリ

(学名 : *Aix galericulata*)

(写真・文 太田祥作)

【カモ目カモ科】



▲ 雄成鳥 (10月、大倉にて撮影)



▲ 雌成鳥と雛 (6月、福井にて撮影)

オシドリは只見町を代表するカモの一種です。雄は豪華絢爛な姿から、他のカモと見誤ることはまずないでしょう。雌は眼を縁取る白いアイリングが特徴です。仲睦まじい夫婦を表す「おしどり夫婦」の由来ともなっていますが、実際は毎年パートナーを代えるという説と、代えない説があるようです。

只見町では夏鳥で、この地域を毎年の繁殖地としています。3月頃から渡来し始め、その時点で雌雄はつがい関係となっています。この時期のつがいは、町内の河川や水路、田植え前の水田など、身近にある水辺で見ることができます。初夏になると、雌は木の洞の中に巣を造って産卵し、卵を温めている間につがい関係は解消されます。雄はその後、雄だけの群れを作って秋まで生活するようになります。雌の方は、孵化した雛を連れて面倒を見、子育てに専念します。なお、雌には血縁度の高い(例えば親子や姉妹)他の雌の巣に卵を産んで、育雛を委ねる「種内托卵」を行うものもいるようです。雌の養育を受けた雛はやがて幼鳥となります。9月になると、成鳥も幼鳥も混ざって沢山のオシドリが集まり、伊南川の何か所かに数十羽を超える大きな群れを形成します。そして10月下旬には、秋の渡りに伴って姿を消します。



▲ 雛 (6月、布沢にて撮影)

只見町はオシドリにとって重要な子育ての場となっています。繁殖期に見られる数の多さは県内でも有数と思われ、鳥類愛好家にも驚かされているほどです。オシドリはカモとしては珍しく頻繁に樹木を利用し、枝の上で休んだり、洞の中で卵を産み温めます。つまり、オシドリの生息には水辺と接した樹林が必要不可欠なのです。只見町におけるオシドリの多さは、豊富な水辺環境のみならず、水辺に隣合った樹林があることで成り立っているとと言えます。

只見町ブナセンターからのお知らせ

下記イベントを開催しております。詳細は只見町ブナセンター(電話0241-72-8355)までお問い合わせください。

企画展「誕生から10年。」

只見ユネスコエコパークのここまでを振り返り、これからを考える」

会期：2024年4月27日(土)～11月4日(月)

場所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー